

## IEA石油市場レポートの概要（2015年6月11日公表）

（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 原油価格については、製品市場需要の力強さと中東における緊迫情勢が5月から6月上旬の間の価格を支えており、レポート記述時点で、ICEブレント価格は約65.95ドル/bbl USWTI価格は、約61.50ドル/bblで取引されている。
  2. 5月の世界の石油供給は、OPEC非加盟国の生産減により、前月比で155kb/d減少し、96百万b/dとなったものの、昨年比で3百万b/dの増加と高い生産量を維持。年間の生産の伸びは、3、4月から僅かに緩まっております。その伸びは、OPEC非加盟国とOPEC加盟国とでほぼ半々。2015年におけるOPEC非加盟国の供給増見通しは、100万b/d引き上げられた。
  3. 5月のOPECの供給は、5万b/d上昇し、3133万b/dに達しており、これは、2012年8月以降最大である。サウジアラビア、イラク、UAEが記録的な月間増産を行っており、OPECの公式供給目標を3ヶ月連続で100万b/dを上回る状況が続いている。石油大臣達は、6月5日の会合においてその目標を維持することに合意している。
  4. 世界の石油需要の見通しは、2015年第1四半期170万b/d、2015通年で140万b/d増加見通し。通常の天候状況への回帰や最近の部分的な石油価格の上昇を鑑みれば、これは2015年第2四半期において、増加のモメンタムが弱まると見込まれるため。
  5. 世界の原油精製は、4月に7790万b/dになったと見込まれ、3月より30万b/dの減少、前年より170万b/dの増加である。OECD非加盟地域における150万b/dの新設備稼働が遅れていることにより、OECD諸国の精製稼働率が上昇し、石油製品市場においてバックワーデーション（注）が再現する要因となっている。
- （注）先行き価格が低下する状況を示す用語。逆に先行き価格が上昇する状況は「コンタンゴ」と呼ばれる。
6. OECD諸国の産業石油在庫は、近年4年間に精製製品在庫が幅広い分野で余剰になった結果、4月に3800万b/d増加し、平均を147百万b上回る状況。暫定的なデータによれば、OECD諸国の在庫は、米国の原油在庫が9ヶ月間で初めて減少したにもかかわらず、5月に1260万b/dさらに増加見通し。